

能登半島北東部で長期間継続する地震活動

平松 良浩 (金沢大学)

ポイント

- 能登半島北部珠洲市周辺で継続する地震活動(2023年5月以前)は主に4つの領域で起こっており、北部、東部の活動域の地震では、複数の面を用いて地震が発生し、深部側から浅部側に震源が移動する。
- 地震活動の長期化の要因の一つとして、震源移動(拡散)速度が遅いことが可能性として考えられる。
- 地震観測、測地観測、電磁気観測等で得られたデータの解析結果から、一連の地殻活動は流体が駆動している可能性が考えられる。

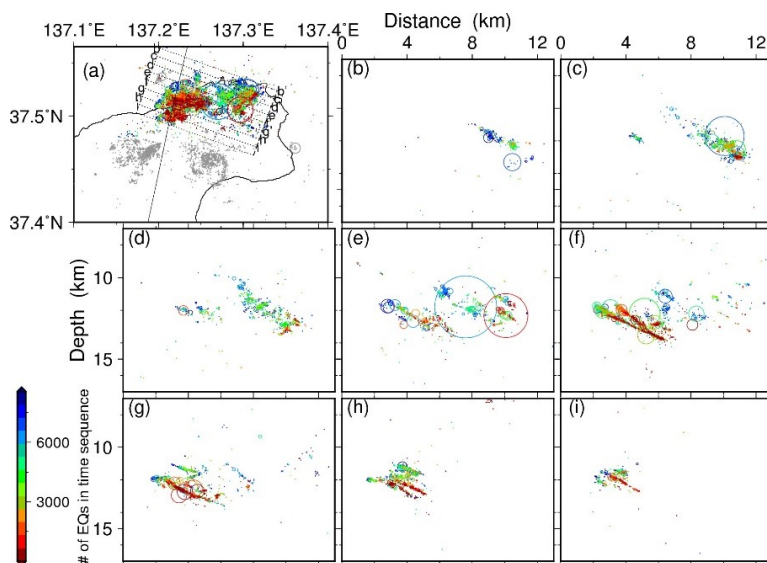


図1. 北部および東部の活動域で発生した地震の震源分布図(断面図)。地震発生順で色付けされている。複数の面を用いて地震が発生し、深部側から浅部側に震源が移動していることが分かる(吉田・他, 2022)。

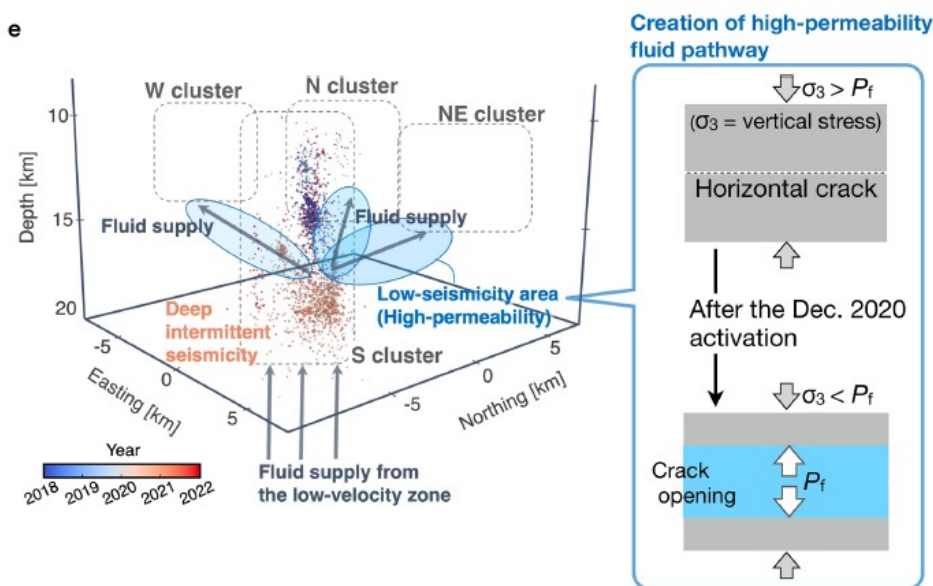


図2. 地震活動及び流体の移動の概念図(Amezawa et al., 2023)。

謝辞: 本研究の大部分は科学研究費助成事業(特別研究促進費)能登半島北東部において継続する地震活動に関する総合調査(22K19949)による助成を受けて実施されました。現地での調査観測では石川県、珠洲市、能登町、輪島市の行政・住民の方々にご協力いただきました。